

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年10月6日

【評価実施概要】

事業所番号	1571500162
法人名	医療法人社団一栄会
事業所名	グループホームよしだ
所在地	新潟県糸魚川市横町5丁目9番12号 (電話) 025 - 550 - 1230

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 7月 19日

【情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 3月 25日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	13人 常勤13人(専任7、兼務6)、非常勤0人、常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火鉄骨 造り
	2階 建ての 1階 ~ 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,440 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 250 円	
	夕食 300 円	おやつ 円	
	または1日あたり 750 円		

(4) 利用者の概要 (20年 5月現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	5名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 84.7 歳	最低 78 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	よしだ病院、インター歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、糸魚川の市街地の一角にある。法人は、同敷地内に病院と老人保健施設を運営する医療法人であり、地域の医療、保健、福祉の担い手として大きな役割を果たしている。ホームの室内は、昔懐かしい落ちついた古民家風のたたずまいで利用者に落ち着きとやすらぎを提供している。
職員は、老人保健施設での介護経験を経てからホームに配属になるので、経験に裏づけされた認知症ケアの知識と技術の基本が備わっており、利用者、家族から大きな信頼を得ている。理念は職員皆で創り上げ、利用者の立場に立ったケアを行う意識が徹底されている。
利用者の急変や緊急時には隣接の病院と連携して適切に対応できる体制が確立されている。地震や火災などの防災対策においても、病院、老人保健施設、ホームで防災システムが整っており、避難誘導なども適切に行うことができるよう訓練がされている。地域住民との連携については、民生委員を通じて町内会や老人会との交流がはじまりつつあり、更なる連携や協力が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は、自己評価、外部評価の意義について十分理解している。評価に対しては謙虚な姿勢で受けとめ、具体的な改善に努めている。「苦情受付の体制」では、家族等からの苦情受付に関する公的機関窓口の電話番号を契約書等に記載し、家族が苦情や意見を言いやすい環境となるよう改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を行うことで得られる気づきの大切さを管理者、職員は理解している。今回の自己評価を通して「地域貢献」について考え、協力のあり方について町内区長と具体的に話し合いを始めた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではサービスの取組状況を報告して、民生委員や行政担当者など第三者からの意見を聞き、運営に反映させている。さらに職員会議でその内容を検討し、サービスの向上に役立てている。行政の担当者が運営推進会議に参加することでお互いの連携が進み、共に協力し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の意見や苦情などは、サービスの質の向上のための宝だと捉え、苦情受付箱を設置するなど意見を出しやすい環境作りを努めている。家族への報告、連絡も密に行っており、家族の希望なども把握することを努めている。また、月1回広報報誌「ちゃんまいる」「ふきのとう」の意を発行し、家族向けの報告をしている。年2回の家族会でも意見や要望を聞くよう努め、家族の気づき、要望を運営に反映するよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の病院や老人保健施設と同じ敷地にあるグループホームであり、これまでは病院や老人保健施設が地域との連携を図ってきたが、徐々にホーム自体としても町内会などとの連携、交流が始まりつつある。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人や家族の想いを大切にす等、職員が創り上げたホーム独自の理念がある。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で創り上げた理念を管理者、職員は共有している。また、新採用の職員に対しても採用時にきちんと理念を伝えている。理念に沿って、本人の立場に立ったケアが日々実践されている。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	理念は見やすい場所に掲示して、訪れた家族や地域の方から見て頂き、理念の浸透に努めている。また、運営推進会議においても、家族、民生委員、行政担当者などに適宜説明して理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の病院や老人保健施設と同じ敷地にあるグループホームであり、これまでは病院や老人保健施設が地域との連携を図ってきたが、徐々にホーム自体としても町内会などとの連携、交流が始まりつつある。民生委員を通じて、町内区長との関わりもできつつある。		今後は、町内行事に参加するなどして利用者が地域の一員として地域住民と交流する機会を積極的に持つことが期待される。また、災害時に協力が得られるよう地域との連携のあり方も検討してほしい。地域へホームの理解を深めてもらうとともに、社会資源としてホームが地域に果たす役割などについて地域の人々と意見交換しながら、さらなる取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は、自己評価、外部評価の意義について十分理解している。評価結果は謙虚な姿勢で受けとめ、具体的な改善に努めている。また、自己評価を行うことで得られる気づきの大切さをスタッフは理解している。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの取組状況の報告を報告し、参加者からの意見を聞いている。それを職員会議で検討し、サービスの向上に役立てている。議事録は家族や来訪者に見ていただけるよう玄関の見やすい場所に置いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当者に運営推進会議に参加していただくことで、連携が進み意見交換がスムーズになった。その結果、行政とは、ともに協力してサービスの質の向上に取り組む関係ができています。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で行われる勉強会に参加するなどして、虐待防止に関する理解を深めている。職員同士で、言葉や態度などの虐待がないよう注意しあいながら防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、訪問時に伝え、必要時には電話でも伝えている。金銭管理についても定期的に報告している。また、月1回広報誌「ちゃんまいる」を発行し、家族に向けてホームの様子を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情などは、サービスの質の向上のための宝だと捉えており、苦情箱を設置するなど、苦情や意見を述べやすい環境作りを努めている。家族の面会時や年2回の家族会でも、意見や要望を聞くよう取り組んでいる。家族の意見は運営に反映している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議などの場で運営に関する職員の意見を聞くよう努めている。日常的にも職員は管理者に対して意見や提案を述べることができ、適宜、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は利用者に丁寧に挨拶し、また、異動した職員は後日遊びに来るなどして利用者との関係を急に断ち切らないようにし、ダメージを軽減するよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルが整備され職員に周知されている。また、見直しも適宜行われている。事故発生時対応マニュアルが携帯用に作成されており、職員は全員所持し、緊急時に活用できるよう周知徹底が図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、法人内の老人保健施設において認知症ケアの基礎知識を学んだあとグループホームに配属されるという一貫した職員の育成システムがある。また、グループホームに配属された後も、法人内外の研修に参加している。日頃から現場では、管理者などの指導的職員が適切な指導、アドバイスをこなしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業種の施設を見学したり、研修会などの場で意見交換や相談などを行っている。それらを通じて、自らのホームのサービスを振り返り、質を向上させる努力をしている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員がストレスをため込まないよう、管理者は、職員が相談や悩みなどを話やすい雰囲気づくりに努めている。また、職員がゆっくり心身を休めることができるよう休憩室が確保されている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、本人・家族から見学に来ていただくようにしている。入居後は、葛藤や寂しさなど本人の気持ちを十分に受け止め、担当職員が密に関わったり、家族からも足を運んでもらうなどしながら、徐々にホームでの生活に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、人生の先輩として利用者本人から学ぶ姿勢を大切にしている。野菜作りや山菜の調理法などを教えてもらいながら、ともに支えあう関係を築いている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の相談には常に耳を傾け、寄り添うことを大切にして、家族と共に利用者本人を支えていく関係を築いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の言葉や表情などをケア記録に書きとめ、意向や暮らしの希望などを把握するよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族に、これまでの生活などの経過を聞くよう努めている。		利用者とのコミュニケーションや信頼関係の構築、また、よりよい介護計画作成のためにも、利用者本人の生活歴やなじみの暮らし方等の情報をより把握できるようなアセスメント様式の作成・活用が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮らせるよう、利用者本人が望んでいること、家族の希望等を良く聞き、また、必要に応じて主治医の指示や指導内容等もふまえて、チームで話し合いながら介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的介護計画の見直しを行なっている。また、状態悪化等の急な変化があった場合にも、速やかに家族・医療機関などと話し合い、現状にあった新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況や要望に応じて通院や送迎など柔軟に対応している。また、時々要望に応じて、隣接する老人保健施設のデイケア利用者とお茶飲みをホームで楽しめるようにするなどして、利用者同士の交流を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医から適切な医療が受けられるよう連携を保っている。受診したり、往診に来てもらったりと状況に合わせて対応している。必要に応じて職員が受診の付き添いなども行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、ホームでの支援体制には限界があるため、病院等必要な医療が受けられる環境に移行していただくというのがホームの考え方である。家族にも了解を得ており、病院や他施設への移行についてはホームでも支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉かけを行わないように、職員会議やミーティングの場で再確認している。記録などの個人情報は、施錠できる保管庫で適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望やペースを尊重し、それに応じた過ごし方を支援するよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものになるよう、利用者と職員は会話を楽しみながら一緒に食べている。野菜の下ごしらえ、盛り付け、味見など利用者と職員が協力しながら行ったり、片付け、テーブル拭きなど一人ひとりの能力にあった役割を担ってもらったりしている。		
22 - 2	56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに応じて、声かけや誘導等必要な支援をしている。排泄の失敗などがあった場合、本人の自尊心を傷つけないようさりげなく対応している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて入浴できる体制ができている。プライバシーに配慮しつつ、さりげない見守りや声かけを行い、利用者が安心して入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、畑仕事、軽作業など一人ひとりの能力や生活歴などを把握し、その人にあった役割や楽しみごとを持てるよう働きかけている。感謝やねぎらいの言葉をかけ、生活の張り合い、喜びにつながるよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に応じて、気候も見ながら、畑仕事や草とりに出かけたり、近くを散歩したり、近くにある喫茶店などに行くなど、日常的に戸外に出ることを支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて定期的に勉強会を開催し、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に玄関の鍵はかけていない。鍵をかけることの弊害を職員全員が理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告書などを活用し、利用者一人ひとりの状態から予測されるリスクを職員間で共有している。それを活かし、事故を未然に防ぐ工夫に日々取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	法人全体で行う勉強会に参加し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。緊急時の連絡方法についても適切な訓練を行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	病院、老人保健施設、グループホームとが、法人全体での防災ゾーンを構築しており、合同で地震や火事を想定した防災訓練を年2回行っている。		今後、消防署の立会いや協力を得ての訓練の実施や、利用者の避難誘導訓練などへの参加についても検討してほしい。また、地域住民との災害時の連携や協力体制づくりについては、現在は取り組んでいないが、必要性も含めて今一度検討してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取状況を記録して職員間で情報を共有し、適量が確保されるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルに季節の花を飾るなどして、五感や季節感に配慮した居心地の良い場所となるように努めている。共用空間は、テレビの音量、光の加減、気温などにも十分配慮し、気持ちよく過ごせる環境づくりをしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本人が使い慣れた馴染みの品物や好みの写真などを持ち込んでもらい、安全面に十分配慮しながら、居心地よく過ごせる空間づくりの工夫をしている。</p>		